

# 地区駅伝、心の成長あり

# 剛健進取



11月号  
令和3年  
11月19日(金)  
文責：比嘉 克章

## 困難を乗り越えて

地区駅伝大会が十月三十日(土)に実施された。今年の地区駅伝はコロナ禍の中、部活動が開始されたのが十月からであった。約四、五年振りの地区駅伝大会出場、その上短期間の練習期間と重なり厳しい状況での参加となった。しかし、全校体制での練習、生徒達の頑張りで結果(二〇位/全二〇チーム)は厳しいものでしたが充実した内容であった。特に、精神面での成長がどの生徒にも見られたのは大きな収穫である。十分来年は期待できると思わせる成長があった。以下に生徒の感想(抜粋)を記す。

## 体験して分かること

「自分に克つ、達成感湧く」  
中三 福田天志(男子キャプテン)  
十月からやっと駅伝練習が始ま



った。練習は、キツく足をつけることが何度もあった。大会に近づくにつれ皆がネガティブになり、下向きになった。一基先生がネガティブな僕たちを叱ってくれ



## 「良い思い出、感謝」

はじめは「30分間走」でしたが、駅伝本番に近づくにつれ練習がハードになっていった。

中三 安田漣都

## 「粘り強さでやり抜く」

「このままではダメだ」と気づいた。それからほとんど前向きになった。本番、緊張したままスタートした。走っていると緊張が飛んでいき頭が真っ白になり、人生で一番キツイ30分間でした。ですがゴール後は、とてもない達成感で満たされた。結果は最下位でしたが自分に克つことができました。ここまで頑張ることが出来たのは仲間や先生方の支えがあったからだと思えます。人への感謝を忘れず今後の人生を進んでいきたい。

中三 宮里優樹

中一の地区陸上嫌な思い出しかなかった。初めて参加した駅伝練習、ハードで「参加したくない」との思いがあった。しかし、他の人たちが頑張っている姿を見て負けられないとの思いで練習に励んだ。すると最初苦しかったのが少しずつ余裕がでるようになった。大会当日、緊張しすぎて喉が渇き最後まで走れないのではないかと思いましたが、たくさんの人たちの応援でゴールできました。達成感はあるがそれ以上に、悔しい気持ちが大きかった



た。この駅伝で学んだことは「粘り強さ」です。どんなにキツくとも、まだ頑張れると言いつつ最後までやり遂げることが出来ました。これから物事に粘り強く取り組んでいきたい。

## 「全員でタスキをつなぐ」

中三 渡口梨美(女子キャプテン)  
はじめ「やりたくない、めんどうさい、疲れる」などマイナス発言を言って部活に行っていた。全体で立てた目標が「脱一位」でした。本部のグラウンドや今帰仁グラウンドで練習した。練習していくうちに記録タイムが二キロを10分切ることが出来嬉しかった。大会当日、一区で大事な区間をもらえ嬉しかったが不安な気持ちもあった。最下位でもいいから全員でタスキをつなげたいという気持ちがあった。今大会、全員が自己ベストを出し

## 「変化、頑張る気持ちに」

完走することが出来、良かった。これも保護者や先生方の応援があったから頑張れたと思う。男女共に完走して良い思い出が出来ました。

中三 具志堅優杏





スの声かけが出来るチームになった。辛くても我慢して「あと少しが出来るようになった。この経験で勉強や部活でも生かしたい。」

毎日本当にキツかった。でも、みんな「あとちよっと」「や「頑張れ」と言い合い良い雰囲気をつくれました。私は、辛くなったらすぐに諦めていましたがこの練習で少しは我慢できるようにになった。大会本番、本当に死ぬ気で走りました。全力を出して走ることが出来た。練習を通してプ

「粘り強く雰囲気の良いチームに」

中二 伊波由依華

す度に少しずつ体力もついてきた。いつもあきらめていたことも最後まで頑張ろうという気持ちに心も変化していったと実感している。五区アンカーということもあり、いつにも増して緊張していて、他校を見るとさらに緊張した。タスキを受け取り、走っているときは、苦しいけど最後まで走りきるといふ気持ちで走っていました。この大会で感じたことがある。周りの応援です。走っているとき知らない方も、皆が応援していたことがとても印象的でした。そのお陰であきらめずにゴールできました。多くの方々に感謝の気持ちを忘れず頑張っていきたい。

バレーボールでも粘り強く、雰囲気の良いチームを目指していきます。

「来年抜かれない」

中二 翁長 凧

はじめは、きつくて倒れそうになり弱音を吐いたりすることがあったけど、最近になって慣れてきた。本番で走る選手に選ばれました。ですが四区を走るのには絶対無理だと思いましたが、大会当日、緊張して水を飲むのも忘れていた。走ったときはきつかった後ろの人に越されてしまっただけです。来年は抜かれないように頑張りたいです。

「来年、脱一位(最後から)を」

中三 安田愛永



始めは少しの距離を走るだけでも疲れたけれど、練習を繰り返すうちに長い距離も走れるようになった。時には練習をすることが嫌だと思っただけで、毎日練習に取り組みました。今大会は「脱一位(後ろから)」を目標に掲げました。いろんな人達の支えがあり、練習も大会も走りきることができました。大会では、みんなと一緒に走ったからこそ大変だった練習を乗り越えられました。来年こそ「脱一位(後ろから)」を達成したい。

「体力ついたが悔しい」



中二 比嘉幹太

駅伝を通して、一番嬉しかったことは体力がついたことです。練習前、10分走るのもゼエゼエしながら走った。今では、半分も軽く走れるのが本当にすごいと思った。大会に出て他校との力の差がすぐわかった。僕が後1キロぐらいの所で、もう名護中がタスキを渡したと聞いた時は本当に悔しかった。また、倒れるまで走ることさえできなかったしタイムも遅かった。来年は、天芯先輩や漣都先輩のように自己ベストを出せるように頑張りたい。

「挑戦したい」

中二 甲斐花楠

今まで運動が嫌いで自分からやるうとは思って一度もありませんでした。最初はともきつかったです。練習を通して我慢して続ける力がついたと思います。走ることはキツくて辛いが前より進んできた(進歩した)と思います。今回学んだことや頑張ったこと経験したことを活かして、運動を続けたり、違うことに挑戦してみたいです。

「感謝忘れず頑張る」

中一 具志堅 梨珠

初めは、「10分走るのもキツかった。練習を重ねることに慣れることができた。初めてのことでハードでしたが、最後まで頑張れて良かったです。本番ではいろんな人に支えられ走ることができたんだと改めて知ることができました。ここまで引張ってきてくれた先生方や保護者、マネージャーに感謝を忘れずに来年も頑張りたい。」



本の寄贈一七冊儀間さん

十月十三日に儀間さんから貴重な書籍一七冊の寄贈がありました。ありがとうございます。

